

一宮町長  
馬淵 昌也

昨今の町の課題のひとつに中央公民館の更新問題があります。町の取り組みについて報告いたします。

一宮町には老朽化の進んだ施設がたくさんあります。その中で、役場では耐震性の不足を重く見て、公民館から更新する方針を立て、昨年、たたき台の案をプロの支援を受けて作成しました。

手始めに、財政担当スタッフに、財政シミュレーションを作成してもらいました。令和5年から3年間、10億円までなら、町財政に悪影響を与えないだろうという結論でした。

公民館の床面積は、現在は約1,200㎡ですが、図書室を拡充し、資料室・子育て支援室などを設けると、1,700㎡から2,000㎡は必要になると思う、ということでした。そして、木造の場合、新築で1,500㎡の床面積の建物だと13億円、現在の公民館をリフォームし、500㎡の増築を行うと、1,700㎡となり、9億円、という試算が出ました。コンクリートの劣化レベルについては、プロの意見ではリフォームすれば50年以上問題なく使える、という見立てでした。

そこで、役場では、リフォーム+増築案を選びました。それは、①10億円という上限に納まること、②他施設の

更新への影響が小さくなること、③広い床面積を確保できること、④使える施設を壊すのは、SDGsにふさわしくないこと、⑤補助金は最大で5千万円ほどしかない見通せないこと、に基づいたものです。

役場では、この試案を、昨年の10月末に、議員の皆さんにご説明いたしました。すると、多数の議員の方から、役場で原案を作るのではなく、住民の参加した建設検討委員会を設置し、そこで基本方針を決めるべきだ、との意見が示されました。そこで、わたくしは、そのご意見に従い、委員会を設置することに決めました。この委員会でも、場所とか、新築かリフォームかどうかも、すべて一から考えて頂くこととしました。そして、役場の試案に誘導することは一切せず、委員会の結論を尊重させて頂くことを約束しました。

現在所管の教育委員会が中心となり、住民・議会の皆さんにご参加頂いた、20人規模の検討委員会の立ち上げを準備しています。そして令和6年度中に集中的に検討を行って頂くことと考えています。

委員の公募を広報紙やホームページでお知らせしています。どうぞご協力賜りますようお願い申し上げます。